

京大環衛研がシンポ

60周年記念セッションも

京都大学環境衛生工学研究会は先月27、28日、京都市の京都大学百周年時計台記念館で第40回シンポジウムを開催した。今年は京都大学工学部衛生工学科創立60周年に当たり、初日には「未来に向けた環境工学の挑戦」をテーマに記念セッションが行われた(写真)。

60周年記念セッションでは、松藤敏彦・北海道大学教授、古米弘明・東京大学教授、高野裕久・京都大学教授がそれぞれ廃棄物、水環境、環境衛生に関する現状や課題、将来の研究・教育への展開について講演し、その後パネルディスカッションが行われた。環境工学の今後の展開については、「無批判性を避け、現場を観察することが重要」(松藤氏)、「社会実装を意識して研究に励み、社会貢献できる成果を取りまとめることを強く認識すべき」(古米氏)、

「環境汚染は今なお身の周りにあり、かく乱性や



高次機能影響、現代病増加との関連性など新たな展開が不可欠」(高野氏)などの意見が演者からあった。

シンポジウムでは、廃棄物・環境管理、水処理、水質汚濁、大気環境、上水道について41件の口頭発表やポスター発表が行われ、2日目には「アジアにおける環境工学・研究と教育の国際展開」をテーマにした企画セッションも開かれた。

環境新聞2018年8月1日号